

平成28年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
<p>1 県工学びのスタンダードやSPH事業を推進する中で、確かな学力の向上を図るとともに、教師の授業力向上に努める。</p>	<p>① 県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業にて育む資質・能力の育成を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>根拠を提示して論理的に主張できると回答する生徒の割合で判断する。 [新規] A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(D) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、「授業等で発言するとき理由をつけて説明している」6%、「やややっている」35%であり、肯定的な回答は41%であった。教務委員会を中心として、教師が、発問の仕方を工夫し「県工ThinkingTime」を活用して、生徒が主体的・能動的に学習し思考を深める授業づくりを目指す。</p>
	<p>② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>学校での補習や家庭での学習時間を1日1時間確保できているかどうかで判断する。 [継続] A ほとんど確保できた B 週に2～3回確保できた C 週に1回程度確保できた D ほとんど確保できなかった</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(B) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、A:12%、B:39%、C:32%、D:17%であり、ほとんど確保できていない生徒の割合は約2割である。平均すると1時間の学習時間を確保できた日数は2.3日であった。なお、現在のところ、判定基準としたA評価70%を大きく下回っている。家庭学習の必要性を理解させ、宿題等学習課題を工夫して家庭学習を促す。</p>
	<p>③ 教師個人及び各教科にて積極的にアクティブラーニングを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。</p>	<p>教務課 全教員</p>	<p>日々の授業においてアクティブラーニングを意識した授業を行っているかどうかで判断する。 [改定] A 月に数回行っている B 月に1回程度行っている C 学期に1回程度行っている D ほとんど実施していない</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(B) 教師対象の学校評価アンケート(前期)において、A:39%、B:36%、C:20%、D:5%であり、判定基準としたA評価+B評価80%に満たない結果となった。 授業において生徒が主体的・能動的に学習し思考を深める授業づくりを軸に、各教師にアクティブラーニングを意識した授業をより多く実践するよう働きかける。</p>
	<p>④ 授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。</p>	<p>学習情報課</p>	<p>年間を利用した平均値で判断する。 [改定] A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下</p>	<p>(学習情報課) 最終評価にて実施 1学期末現在、教師対象の学校評価アンケート(前期)において、利用回数5回以上:46%、4回以上:7%、3回以上:19%、2回以下:28%であった。また、生徒による授業アンケート「先生は、授業においてよくICT機器を活用していると思いますか」に対し、77%の生徒がやや思う以上の回答をしている。生徒からすると先生はICTを活用していると感じており、2学期以降も各教師に対して利活用を促していく。</p>
<p>2 県工人間力スタンダードを掲げ、校訓による規範意識やマナーの向上等、将来の職業人としての意識の高い生徒の育成を目指す。</p>	<p>① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。</p>	<p>生徒指導課 各学年</p>	<p>挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 [継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満 前年比の減少の割合で判断する。(遅刻者数) [新規] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p>(生徒指導課・各学年) 中間評価(B) 生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、「取り組んでいる」47%、「やや取り組んでいる」46%であり、合わせると93%であった。A評価には2ポイント及ばなかった。 授業、部活動、集会等を通じ、機会あるごとに挨拶の大切さを説き、挨拶の励行に取り組む姿勢の醸成・向上に努める。 (生徒指導課・各学年) 最終評価にて実施 1学期末までの遅刻者数は前年比3%減であり、減少割合は少ない。保護者対象の学校評価アンケート(前期)では、98%が基本的生活習慣や躰に対する指導が適切に行われていると思うと回答している。学年、科、部活動顧問と連携を取り、さらに家庭とも協力して基本的生活習慣確立に向け、粘り強く指導を行う。</p>
	<p>周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。</p>	<p>総務課</p>	<p>生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 [改定] A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満</p>	<p>(総務) 最終評価にて実施 1学期末現在、生徒対象の学校評価アンケート(前期)において、周辺美化活動参加者のうち87%の生徒が「積極的に取り組んだ、やや積極的に取り組んだ」と回答し、地域貢献に肯定的な回答であった。県工モノづくりワールド後のアンケートでは93%の生徒が「積極的に取り組んだ等」と回答している。 今後は、地域貢献意欲を向上させるよう各ボランティア活動の趣旨を生徒へ周知し、積極的に取り組ませたい。</p>
	<p>② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。</p>	<p>生徒指導課 学年団</p>	<p>違反指導件数減少の割合を目標とする。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p>(生徒指導・各学年) 中間評価(C) 自転車の違反件数は、7月末現在で昨年度と同数の20件である。違反指導件数は減少していない。生徒に「自転車を運転する際、自転車マナーに気をつけていますか」とアンケートしたところ、57%が「気をつけている」、39%が「やや気をつけている」と回答した。違反指導件数、自転車事故件数を減少させるためには、「気をつけている」と回答する生徒の割合が増加する必要があると、全校集会、学年集会およびLHを通じ、自転車マナー向上へ向けて指導する。</p>

重点目標		具体的取組		達成度判断基準		分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策	
3	就職、進学ともに確かな進路実現を図り、それに向けた資格取得や検定等に意欲的に取り組み、専門分野の技能向上に努める。	①	就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%~90%未満 C 80%~85%未満 D 80%未満	(進路指導課) 最終評価にて実施 暫定(A) 1社目受験で内定した割合: 95.9%(昨年同期97.5%) 就職試験受験者193名中、1社目受験での内定者185名(9月末時点)	
		②	専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業7科	「良かった」と評価された割合で判断する。 [改定] A 90%以上 B 85%~90%未満 C 80%~85%未満 D 80%未満	(工業7科) 最終評価にて実施 1月に行う県工展において、来場者アンケートを実施し最終評価する。	
		③	生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 [継続] A 60名以上 B 50名~60名未満 C 40名~50名未満 D 40名未満	(教務課) 最終評価にて実施 前期の認定者数は17名(ジュニアマイスターゴールド5名、ジュニアマイスターシルバー12名)であった(昨年同期22名)。後期に技能士等ポイントの高い資格試験が多い。そのため、後期の認定者数を含めて最終評価する。	
		④	全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった。 B 全国大会に出場した。 C ブロック大会で入賞した。 D 県大会で入賞した。 ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した。 D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 最終評価にて実施 暫定(C) ものづくりコンテスト県大会 旋盤部門 優勝(北信越大会出場) " 県大会 電気工事部門 3位 " 県大会 電子回路組立部門 2位(北信越大会7位) " 県大会 化学分析部門 優勝(北信越大会奨励賞) ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 最終評価にて実施 暫定(A) 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2016 in 白山 優勝 ----- 各種コンテスト、コンクール(工業7科) 最終評価にて実施 暫定(C) 石川の農林漁業まつり広報図案コンクール入選 愛鳥週間ポスターコンクール石川県審査入賞、環境月間ポスターコンクール石川県審査入賞	
4	部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	①	活発な部活動を通して、加入率と成果の向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。 [継続] A 95%以上 B 90%~95%未満 C 85%~90%未満 D 85%未満 ----- 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課) 中間評価(A) 全体で97.4%の生徒が部・同好会に所属している(昨年同期96.7%)。数年来、高水準の加入率が続いている。途中退部者が出ないように指導するとともに、途中退部者に対しては、他の部・同好会に所属し活動していけるような働きかけを継続する。 ----- (生徒会課) 中間評価(B) 全国高校総体には、男子バレー部、柔道部、テニス部、ボクシング部が出場した。県総体学校対抗順位では暫定で男子3位(昨年4位)。男女総合で6位(昨年6位)。今年は、女子剣道部が北信越大会に出場するなど女子運動部も活躍している。各部が活発に活動しているので、今後の各種大会で上位入賞に期待がもてる。	
			②	学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切に、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 75%~90%未満 C 60%~75%未満 D 60%未満	(生徒会課) 中間評価(A) 保護者対象の学校評価アンケート(前期)において、「行事が充実していると思う」56%、「やや思う」41%であり、肯定的な回答は97%であった。 今年は、本校創立130周年を迎える年であり、今後も学校行事に生徒が主体的・積極的に取り組むよう支援する。
		③	歯科保健指導を通じ、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 [継続] A 30%以上 B 25%~30%未満 C 20%~25%未満 D 20%未満	(保健課) 最終評価にて実施 暫定(D) 8月末までの歯科受診率は12.9%であった(昨年同期21.6%)。 歯科検診実施直後および7月の保護者懇談時の2回、文書による受診勧告を行ったが、昨年に比べ受診率は大きく後退した。今後、保健室が中心となって、部活動顧問、学年団と連携し、個別指導を行うとともに他校の効果的な取組を参考にして受診率の向上を図る。	